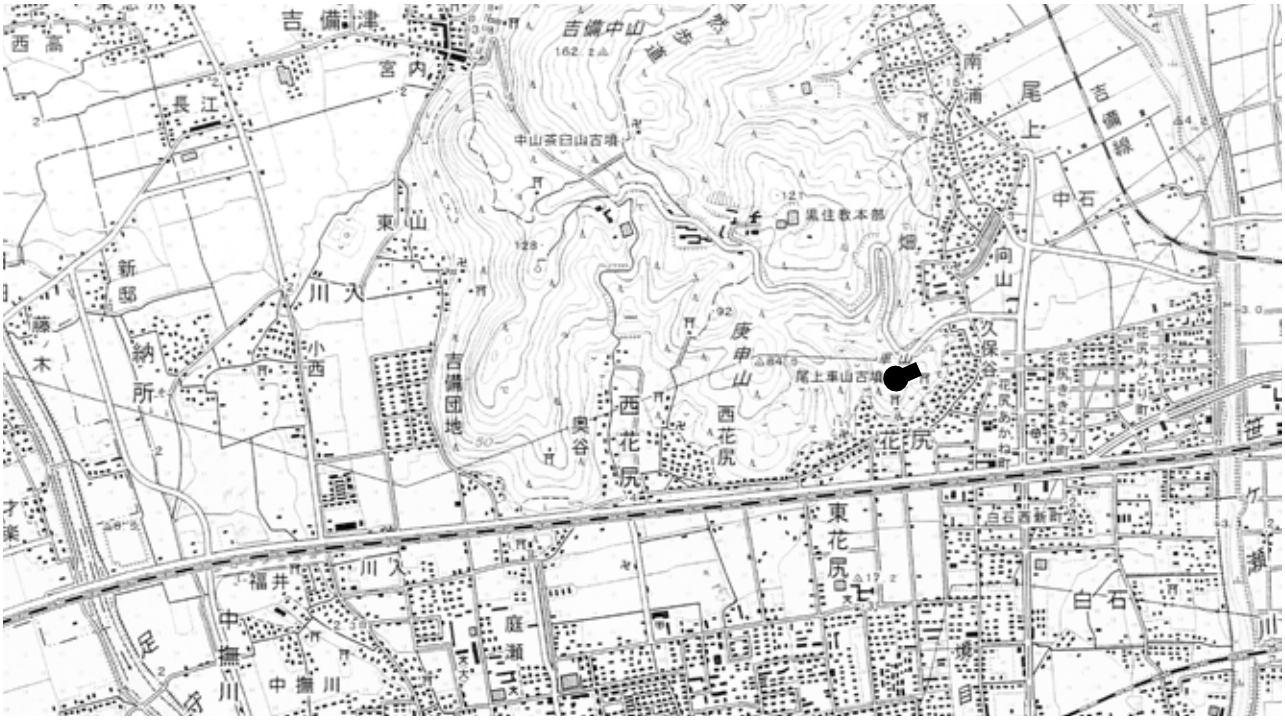
遺跡紹介

尾上車山古墳

寒川史也

【遺跡の位置】



S=1/25,000

【遺跡の概要】

尾上車山古墳は、岡山市北区尾上に立地する前方後円墳で、1972 年（昭和 47 年）に国史跡に指定されています。過去に埴輪片が採集されていますが、墳丘規模や墳形など古墳の詳細に関していくつか不明な部分がありました。そこで、2014 年に全容をより把握するための一歩として墳丘の測量調査を実施しました。

古墳の墳丘は後世の削平によって大きく影響を受けていますが、測量成果によると、古墳の主軸は後円部側からみて北東方向を指向しており、墳丘は墳長 138.5m、後円部径 96m、後円部高 11m、前方部長約 56m、前方部幅 52m、前方部高 9m の規模に復元されました。また、後円部と前方部の墳頂で比高差は約 6m となり、後円部は三段築成、前方部は三段もしくは二段築成になるものと推測されます。古墳の各所では残存する葺石が露出しています。

尾上車山古墳は墳形に特徴的があり、前方部がスカート状に広がらず、直線的（柄鏡形）に伸びています。同時期においては類例が少ない形態です。古墳の立地に関しても、当時の海岸線を丘陵部南側の眼下に見下ろす位置にあり、海上交通を強く意識してつくられた古墳であることが分かります。

古墳の築造時期としては、出土している埴輪から古墳時代前期後半ごろが考えられます。これ以降、備中の足守川流域では佐古田堂山古墳をはじめ、中期前半には造山古墳といったように巨大な前方後円墳が築かれるようになります。尾上車山古墳はそれらの動きの先駆けとなった可能性もあり、地域史の中でも重要な位置づけを担っています。

【文献】

水内昌康　1986 「尾上車山古墳」『岡山県史』考古資料
岡山市教育委員会　2016 『岡山市埋蔵文化財センター年報』15

【交通】

岡電バス「尾上南」下車　徒歩 15 分

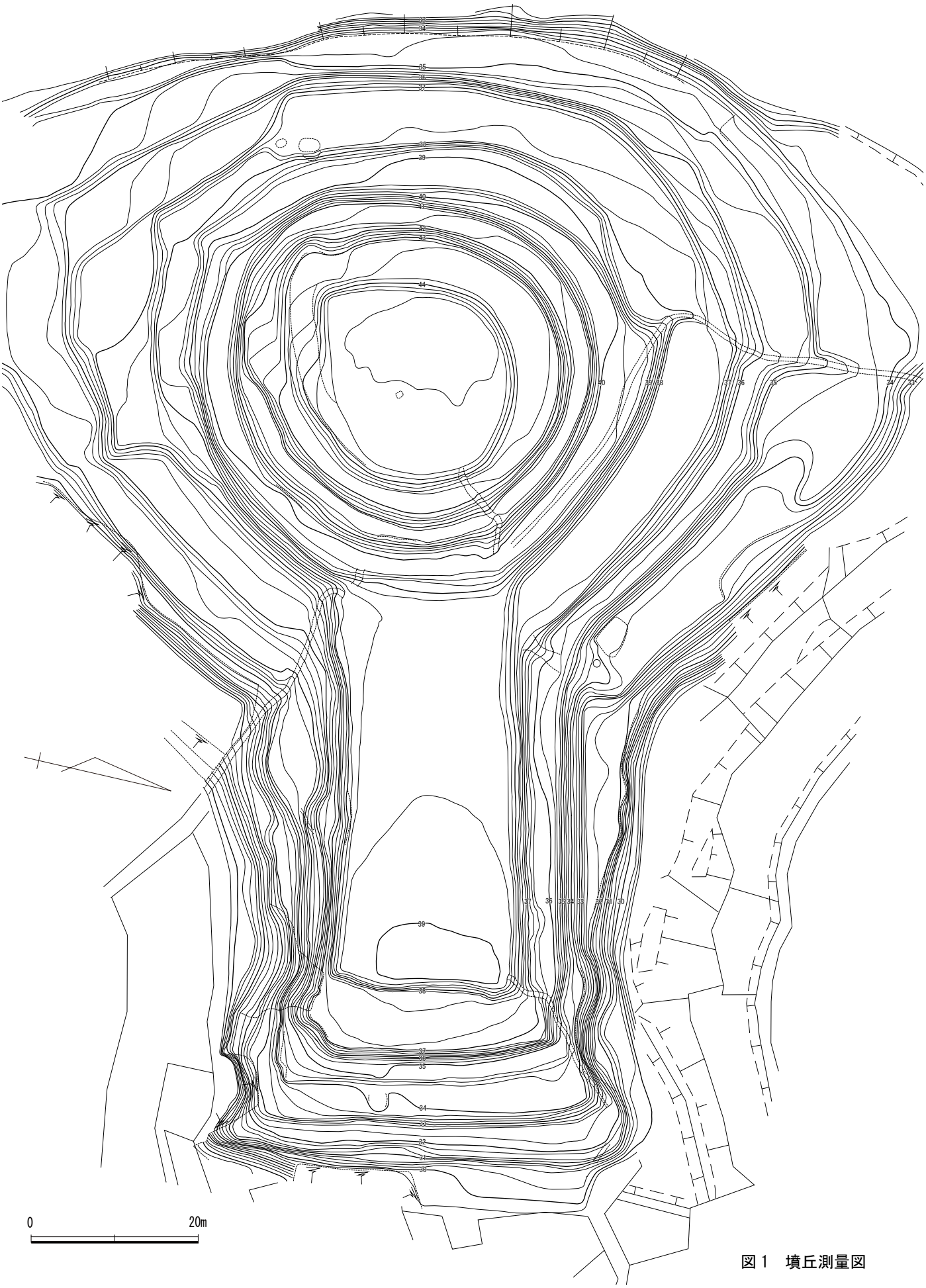


図１　墳丘測量図